

## 続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.01)

### 「始めた仕事は半分終わったのも同じ」

・・・再びメキシコへ着任の挨拶を兼ねて・・・

このたび(独)国際協力機構(JICA)の、海外シニアボランティア活動に応募したら、幸いにも合格し、再度メキシコへ派遣されることになった。凍えるような寒さの日本を1月8日に出発し、何か時間を得た気分で、時差の関係で同日のほぼ同じ時刻に、少し肌寒いかなあという程度のメキシコへ着いた。

出発前、「なぜ、2度も同じ国へ応募したのですか?」と、よく聞かれたが、「ははは!メキシコが好きになってしまったのさ」と答えている。これでは結果というか現象であって、理由とはなっていない気がするし、ましてこの程度の理由では相手国に対しても失礼というものだろう。

この背景には、先回の派遣から日本へ帰国してからも、元の配属先の多くの方から、メキシコへ再度来ないかという暖かい誘いがあったこともあるが、そのほかの理屈をこねることは面倒なのでこれで押し通すことにしよう。

仕事場は、職場全体のトップが40才半ばの女性、所属する部門のトップ(部長)も彼女と同年代の女性、関係者等の調整役を担ってくれる人も女性と、職場でも女性の比率が高く、日本に居たときの泥臭い男性社会で経験した職場とは違う緊張感があるが、着任の挨拶のために訪問したとき、多くの社員が **abrazo** (アブラツ、抱擁) と頬への **beso** (ベソ、キス) のメキシコ流挨拶の大歓迎で迎えてくれたので、勝手知った昔の職場のこととはゆえ、いささかホットした気分である。

あたかも戦場から帰国した兵士が、歓呼の声で迎えられるシーンを髣髴させる。変っているのは軍服を着、鉄砲を担いだ若き兵士の代わりに、背広を着てスーツケースをさげたくたびれかかった、かつての「企業戦士」と、「バンザイ」、「バンザイ」の連呼が無いだけだ。(ちょっとオーバー気味に書きすぎたかな)

それはさておき、いつものことながら、物事を始めるにあたっては、何から始めて良いか分からず頭を悩ますものである。小中学生の頃、作文の宿題を与えられると、書き出しに困り子供心にも苦労した記憶が蘇る。

書き出しが出ないと後が続かない。その段階を通り過ぎれば、後は一気呵成ということだろう。今回も仕事を始めるにあたっては、同じ轍を踏むかもしれない。このようなことを思いつつ、タイトルに採用したのは、「**Obra empezada, medio acabada**」(オブラ エンペサーダ メディオ アカバーダ と発音し、意味は表題の通り)のスペイン語の諺からである。前の経験を踏まえながら、職場の関係者と良い状態を保って、少しでもこのタイトルのようにスタートダッシュに気をつけたいと思っている。

先回の派遣では、「ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り」と称して、2年間の間、通算70回にわたり、関係者に勝手に送付させていただいた。そのときの、最終稿の「番外編」として、某テレビ局のヒット番組から採用して、次の通り書き記した。



「本便りは、前回で止めようとしたのだが、..(略)…。まだ書きかけのテーマ原稿が、相当残っているが、時間がないのでひとまず、今回で打ち切ります。帰国後、意欲が出てきたら追加したいと思います？」

「ん？ お呼びでない、お呼びでない・・・こりゃ又失礼しました」、放送終了直前に色々のシチュエーションで、植木等扮する様々な登場人物が、にやりとしながら発する、このギャグが絶妙なタイミングで面白かった。(以下略)」

日本に居た間、暇にまかせて見ていたテレビでは、何処の民放局も、コマーシャルを入れた後に、少し前の繰り返し場面を何回も映し出し、うんざりするが、親切心に名を借りた安易な時間つぶしとしかみえない。

といいつつも、この手法を見習ったようにみえるし、「ん？ お呼びでない、お呼びでない・・・こりゃ又失礼しました」と書いたものの、今回の派遣に当たっても、性懲りも無く「続編」を作成し、何回に亘るかは不明であるが、少しでも当地の事情を紹介したいと思う。

恥をかくかもしれない、それでもと、脳を活性化させ、老境に入った自分を少しでも奮起させる意味で、滞在雑感を思いつくまま記してみたい。数多くある樹木の中の一本だけを取り上げて、森全体を見たという誇りを受ける事も覚悟しているが、人生の大半を過ごしてきた日常生活と、いささか異なった異文化での経験談と、ちよつとばかりの苦労話が分かっていたらいただけたらばと思っている。

時には特殊な事例を紹介することもあるかと思うが、過去から中南米の人々と接し、彼の地をこよなく愛している一人の人間として、記した事象が我々の文化と異なっているからと言って、決してそれを異質なものと見下して見ているつもりはないことも断わっておきたい。

前の便りと同じで、タイトルはスペイン語の諺から流用したものを数多く載せるつもりだが、諺のなかには日本との文化の違いとか、発想の違いがあるのがわかっていたらと思う。

極めて平凡な会社人間だった一技術屋が、相談する人も居ない中で仕事を続け、戸惑いの日々を送りつつ、メキシコ名産のテキーラを飲みすぎた、“**Borracho**” (ボラッチョと発音し、酔っ払いの意)の見聞きした、“**Divagación**” (ディバガシオン、余談、脱線)、あるいは“**Disparate**” (ディスパラテ、たわごと)、“**Músicas**” (ムシカス、戯言、ナンセンス)と、解釈していただければありがたい。

例によって本便りの受信者はこの駄文を読んでもいただこうと、勝手に予想しながら事前に許可無く送らせていただくが、今回新たに追加させていただいた方も居ます。忌憚りの無い御意見をいただけたなら、幸いに存じます。まずは着任の挨拶まで。

これからもよろしくお願いいたします。(現地時間 2009年1月18日、Pm.21時43分)

\* **ボラッチョ・ボニート**とはスペイン語で、「良き酔っ払い」のことで、ただのノンベイだけで終わりにたくないことを願ってつけました。ボラッチョの言葉の関連としては、シェイクスピアの「空騒ぎ」にも登場人物として、英語の俗語としてつかわれている、**Borachio** として出てくるとのことです。